

くじゅう坊ガツル地域のほ乳類

くじゅう坊ガツル地域で観察されるほ乳類は、表1の6目11種です。その他にも数種類のネズミ類の生息も考えられます。特に、冬季の降雪が見られる時期は、九州自然歩道や大船林道からくじゅう坊ガツル湿原に通じる道沿いには、イノシシ、ノウサギ、テン等の足跡を多く観察できます。運が良ければ、イノシシが餌を捜して雪を掘り返している箇所やノウサギの足跡を追いかけているキツネの足跡を見かけることができるかもしれません。また、冬場は、ノリウツギやミズナラ等の落葉樹が葉を落としているので、動物の足跡を比較的林の奥深くまで観察することができます。

表1. 確認されたほ乳類

目 名	科 名	和 名	種 名	確認方法
モグラ目	モ グ ラ 科	コウベモグラ	<i>Mogera robusta</i>	直接確認
サ ル 目	オナガザル科	ニ ホ ン ザ ル	<i>Macaca fuscata</i>	聞き取り
ウサギ目	ウ サ ギ 科	ノ ウ サ ギ	<i>Lepus brachyurus</i>	直接確認
ネズミ目	リ ス 科	ム サ サ ビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	聞き取り
ネ コ 目	イ ヌ 科	キ ツ ネ	<i>Vulpe svulpes</i>	聞き取り
		タ ヌ キ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	直接確認
	イ タ チ 科	テ ン	<i>Martes melampus</i>	直接確認
		イ タ チ	<i>Mustela itatsi</i>	直接確認
		ア ナ グ マ	<i>Meles meles</i>	聞き取り
ウ シ 目	イ ノ シ シ 科	イ ノ シ シ	<i>Sus leucomystax</i>	直接確認
6目	8科	11種		

図1.は雪上に残されたイノシシの足跡です。坊ガツル湿原に通じる大船林道や九州自然歩道の林の中に冬季の降雪後に見かけることができます。

冬場の雪が降ったときは餌が不足し餌を捜して移動するので夏場では観察できない行動の様子を知ることができます。



図1. イノシシの足跡

くじゅう坊ガツル地域で冬季に一番多く観察される動物の足跡は、ノウサギの足跡です。図2のようにノウサギの足跡は、2つのやや丸みを帯びた前足と2つの大きな後足からなっています。大変特徴的な足跡ですから一度覚えると忘れません。ノウサギの足跡をたどっていく時には、キツネ等の動物が後と追っている場面や追われたノウサギの足跡が突然なくなっている場面に出会うことがあります。この場合はその足跡を少し逆戻って、その周辺をよく見ると新しい足跡を見つけることができます。これは、捕食者などに追われたときに見られる行動です。

また、2月以降には足跡の他に雪上に赤褐色の尿をまき散らしていることがあります。この現象は、ノウサギが繁殖期に入ったことを他の個体に知らせているところです。



図2. ノウサギの足跡

くじゅう坊ガツル地域には、テンとイタチも生息しています。テンとイタチは、大変似ているので見分けが難しい動物です。しかし、テンはイタチに比べ、ひとまわり大きく、冬季はきれいな黄色の体毛をしています。黄テンとも呼ばれています。また、テンとイタチは、餌も似通ったところがありますが、テンは果実類を好み、野いちごなど、よく食べています。



図3. テンの足跡